

第1回環境部会

開催日 : 平成26年1月29日

開催場所 : 名古屋市内

出席 : 【委員長】

辻本 哲郎 名古屋大学大学院教授

【環境部会委員】

沖野外輝夫 信州大学名誉教授

萱場 祐一 土木研究所河川生態チーム上席研究員



議題 : 1) 小渋ダムの概要

2) 既往委員会(小渋ダム堆砂対策検討委員会)の経緯

3) ダム下流河道のH26~27環境調査計画

H26~27度調査対象項目の調査計画(案)

区分	調査項目	目的	調査手法	調査地点	調査時期頻度								
					H26年度		H27年度						
					春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	
物理環境	河床形状(河床形状)	河床形状(縦横系)の把握	基準点測量	距離標 500m 毎					①				①
	河川測量			空河川管理のための断面標					①				
	河床形状(河床材料)	河床材料の粒径変化の把握	容積サンプリング法(平面採取法)	距離標 0&0, 1&0, 1&6, 2&6, 3&1, 3&6, 4&0									①
	河床材料粒径調査			空付近の河床形状を考慮し位置を決定									①
河川生態	航空写真撮影	河床材料や葎位置、植生の状況などを全体的に把握	ラジコンヘリコプターによる写真撮影	任意					①				注1)
	土砂移動	土砂バイパスの供用による材料の運出状況把握	ICタグ付き観測(試供体)の移動性調査	任意					①				
	-ICタグ付き観測調査			空状供体設置地点~天竜川合流点									①
	水質	平常時満水および水風の把握	採水、分析	ダム上流:種谷橋、ダム下流:管理橋(4&8)									
生物環境	付着藻類	付着藻類の発生種、剥離更新等の把握	コドラー調査	距離標 1&0, 1&0					①				①
	底生動物	環境変化を指示しやすい生物として代表的に実施	シーベネット等による定量採集(河川水辺の植物調査に準じる)	距離標 1&0, 1&0					①				①
	魚類	出水時における魚類に忌避行動可能な調査	出水時取水機用における目視調査	任意					⑤	⑤			
	底生動物(調査項目)	底生動物の把握および重要種の生息把握	投網、タモ網などによる定量採取(河川水辺の植物調査に準じる)	距離標 1&0, 1&0									①
陸域植生(重要種)	重要種(ツツギキヤマヅノ)の分布域の把握	H23 調査と同様のラインにおいて目視調査	任意										①

調査時期頻度の記号の凡例 ①: 出水前後、②: 毎月1回(平常時)、③: 主な出水のピーク前後1回(出水時)、④: ダム上流調査(付着藻類)、⑤: 主な出水のピーク後
注1) 要協賛項目(部会により決定)、注2) いずれかの時期に1回年を基本として実施、注3) H28年度以降は土砂バイパス地より下流地点も追加する

H26~27度調査対象項目の調査地点(案)

